

刊行にあたって

日常臨床において、歯内療法処置は歯科治療のまさに根幹をなす部分であり、一般診療を行っている歯科医師であれば避けては通れない治療のひとつである。また、歯内療法で応用される歯科器材・薬剤については、各メーカーによって日々種々の検討がなされ、新しい製品が開発されて次々と臨床の場に提供されている。

一方、歯内療法領域に歯科用マイクロスコープが導入されてから、早いものですでに25年が経過している。また、歯内療法関連の薬剤も日々進化しているものの、歴史的な剤品をいまだに多用している一般の歯科医院があるのも事実である。新しい剤（材）品が有用であると認識していても、やはり長年にわたって使用している製品を信じているなどの理由から、なかなか導入されないうちに日々が経過しているということも聞く。

このような現状から、今回は歯内療法関連の器材と薬剤に焦点を当て、歴史的な剤（材）品の見直しから、最新の器材や術式の紹介まで、日常臨床ですぐに役立つ内容の特集した次第である。具体的には「診断」と「治療」に大別し、診断用器材と治療用器材、さらに治療用材料と治療用薬剤について、歴史的なものから最新の話題のものまでを取り上げ、それぞれの特徴やトピックについて各専門の先生方にまとめていただき、現在の歯内療法における“すぐれモノ”を数多く紹介している。

本書が明日からの歯内療法を見直すきっかけとなり、日常臨床のレベルアップに繋がれば幸いである。

2018年10月
編集委員一同